

## 阪神・淡路大震災によって明るみに出た関東大震災の手記

山村紀香（阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター資料室）

### §1. はじめに

阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターは、19万点を超える一次資料を所蔵している。一次資料とは、阪神・淡路大震災の被災状況を物語るものや、被災地の復旧・復興過程において使用・作成されたものであり、モノ資料や紙資料、写真資料、映像・音声資料など多岐にわたる(図1)。

しかし、これらの膨大な資料の中には、阪神・淡路大震災に関する資料だけでなく、他の災害に関する資料もまれに存在する。たとえば、関東大震災である。このような資料の来歴は、阪神・淡路大震災に関する資料を寄贈した方の“親”が若い頃に関東大震災を経験しており、手記などを書き残している場合である。つまり、“子”が阪神・淡路大震災に関する資料を寄贈する際に、“親”の残した関東大震災に関する資料も何かの役に立てれば、と併せて寄贈する場合である。本発表では、その中から2つの事例を紹介するとともに、簡単な考察を行う。

### §2. 横浜から東京への帰宅困難に関する手記

この資料は、寄贈者の父・森下清吉の自伝の一部を抜粋したものである。手記には、関東大震災が発生した1923年9月1日に横浜へ仕事で集金に出掛け、そこで被災した清吉が約70kmの道のりを3日かけて歩き、東京へと戻る様子が描かれている。

一次資料	
総数 190,323点	阪神・淡路大震災の被災状況を物語るもの、被災地の復旧・復興過程において使用・作成されたもの *収蔵庫に保管されています。閲覧には申請書が必要です。
モノ 1,435点	5時46分で止まった時計、ボランティア基地や仮設住宅の看板など
紙 180,792点	被災者の日記や手記、避難所の日誌・チラシ、ボランティアの活動記録など
写真 6,137点 (129,013枚)	倒壊した建物や被災したまちの風景、仮設住宅、救援やボランティア活動の様子など
映像・音声 2,073点	被災者が撮影した震災時の映像、地元コミュニティFM局のテープなど

図1 一次資料の概要（2019年4月末現在、阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターHPより引用）

地震発生当日の9月1日の手記には、本震が発生した際の揺れの詳細な描写や、時々刻々と変わっていく横浜周辺の火災の状況などが記されている。東京へ歩いて帰ろうと決意をした9月2日の手記には、道中での被災状況や、一時避難のための仮小屋の建設状況、あるいは余震に関する記録も残されている。また、伝聞情報や噂・流言などが飛び交っている様子やその内容についても書き残されている。東京に辿り着いた9月3日の手記には、東京駅周辺から小松川周辺にかけて、橋梁の被害状況や火災による焼失状況などが述べられている。

### §3. 被服廠跡の火災旋風に関する手記

この資料は、寄贈者である木村修子が阪神・淡路大震災の被災写真などを寄贈した際に、稀少と思われる父母の関東大震災に関する資料も同封するかたちで寄贈された。これらの資料は、寄贈者の父・原田茂佐人の関東大震災の記録集や新聞記事のスクラップ、母・登久恵の自叙伝などである。その中でも、関東大震災の記録集は、震災当時に茂佐人が被服廠跡に隣接した建物に居住しており、火災の惨状の一部始終を目撃したことについてまとめられている。被服廠跡における火災旋風の発生地点や旋風の外周、旋風の威力や旋回の様子、終息地点など、こと細かに実体験とともに記されている(図2)。そのうえで、茂佐人は被服廠跡の火災旋風の原因やメカニズムについて考察を行っている。また、震災から50年後の1973年に自身の体験や考察をもとに、入沢恒(当時横浜国立大学工学部教授)らと火災旋風について意見交換をしたとされる手紙も残されている。



図2 火災旋風の実体験と考察